

滑膜肉腫ワクチン

末期がんへの

治療効果確認

札医大チーム

札幌医大の和田卓郎准教授(整形外科)らのチームは4日、腕や足の関節にできる滑膜肉腫への免疫力を高める新しい抗原ペプチド(アミノ酸の結合体)を見つけ、末期がん患者の治療に効果を確認したと発表した。今後、同様の効果が期待できる骨肉腫への臨床試験も本格化させることを明らかにした。

滑膜肉腫の国内患者は10〜40代を中心に100人程度いるが、再発や転移も多く、有効な治療法が限られる。抗原ペプチドを投与し、患者自らの免疫力を向上させてがんの進行を抑える治療法はペプチドワクチン療法と言われている。和田准教授らは2002年、滑膜肉腫の細胞を攻撃するリンパ球の活性化にかかわる抗原ペプチドを発見。手術や化学療法が効かず、肺などへの転移もあった患者18人に投与し、効果をテストした。

同時投与する薬を調整するなど改良したところ、07年以降に投与も2年以上生存している確立したい」としている。また、同チームは04年に骨肉腫でも後、臨床試験を本格化

縮小したり、進行が止後、化学療法などと比較しながら、治療法と同一効果が出る可能性を始めた3人のがんがある別の抗原ペプチドを発見しており、今